

参考資料：用語解説

<か行>

神奈川県地球温暖化対策条例に基づく特定開発事業温暖化対策計画書制度	大規模な開発事業を行う事業者に対し、複数の建物間のエネルギー共同利用など、計画の初期段階でなければ導入が困難な対策の検討を促し、開発後のエリア全体の温室効果ガスの排出抑制を図るため、開発事業における温暖化対策に関する計画書を義務づけ、その概要を神奈川県が公表する制度。
環境共生住宅	パッシブ型とアクティブ型があり、パッシブ型は、植え込み等による緩やかな区切り、南側への落葉樹の配置、庇・緑のカーテン、通気性の高い構造等により快適な熱環境を目指す住宅。アクティブ型は、高気密・高断熱の構造で建物の省エネ性能を高めて、太陽熱温水器や太陽光発電等の機械装置により再生可能エネルギーを用いる住宅。
建築環境総合性能評価システム (CASBEE)	住宅の快適性や周辺環境、まちなみ、景観などへの貢献といった環境性能や省エネ、省資源、リサイクルなどの環境負荷の面などを総合的に評価格付けするツール。
交通結節点	異なる交通手段（場合によっては同じ交通手段）を相互に連絡する乗り換え・乗り継ぎ施設。具体的な施設としては、鉄道駅、バスターミナル、自由通路や階段、駅前広場やバス交通広場、歩道などがある。
コージェネレーションシステム	熱電併給システムのことで、ガスエンジン等で発電して、発電に伴う排熱を用いて給湯や空調などの熱を供給するエネルギー効率の高いシステム。

<さ行>

再生可能エネルギー	エネルギー源として永続的に利用することができるものと認められるもの。太陽光、風力、水力、地熱、太陽熱、大気中の熱その他の自然界に存する熱やバイオマスが規定されている。
小水力発電	1000kW以下の小規模の水力発電のことであり、RPS法（電気事業者による新エネルギー等の利用に関する特別措置法）の対象となっている。一般河川、農業用水、砂防ダム、上下水道、工業用水など、落差と流量のあるところであれば様々なところで導入可能である。
自立分散型電源	電力会社の大規模集中発電による電力供給ではなく、需要地に隣接して分散配置される小規模な発電設備全般のことであり、蓄電池、燃料電池、太陽光発電、風力発電等がある。
ZEH、ZEB	ZEH（Zero Energy Home）、ZEB（Zero Energy Building）とは、建物・設備の省エネ性能向上、エネルギーの面的利用、再生可能エネルギーの活用等により、建物における一次エネルギー消費量をゼロにする建築物。

<た行>

地域冷暖房システム	駅やビル、商業施設、マンションなど地域内の建物に対し、まとめて冷暖房や給湯を行うシステム。住宅やオフィスごとに個別に行われる冷暖房・給湯を地域ぐるみで行うことで、より効率が高いエネルギー供給が可能となる。
地点熱供給	熱供給事業法の適用を受けない熱供給事業であり、主に特定の建物・需要に対して、集中熱発生施設による熱供給システム。業務・商業等複合地区や医療・福祉施設、大学等教育施設など多様な施設において採用されている。
超小型モビリティ	自動車よりコンパクトで小回りが利き、環境性能に優れ、地域の手軽な移動の足となる1人～2人乗り程度の車両。導入・普及により、二酸化炭素の削減のみならず、観光・地域振興、都市や地域の新たな交通手段、高齢者や子育て世代の移動支援等の多くの副次的便益が期待される。

トランジットモール	中心市街地やメインストリートなどの商店街で、自動車の乗り入れを制限して、歩行空間（モール）として整備するとともに、バスや路面電車など公共交通（トランジット）だけを通行させて、人々が集い憩う魅力的で安全な歩行空間を創出する。
-----------	---

<な行>

ナショナルグリッド	電力会社が所有する既存の送電網
二酸化炭素貯留 (CCS)	二酸化炭素貯留 (Carbon Capture and Storage) は、二酸化炭素を回収・貯留する技術であり、現在、火力発電所や製鉄所などで、二酸化炭素濃度が高い排ガスから二酸化炭素を回収し、地中や海中に貯留する技術が実用化されている。
熱融通	熱供給事業法の適用を受けない熱供給事業であり、近隣の建物相互間で熱源設備を導管で連結して共同利用することにより、熱を融通するシステム。

<は行>

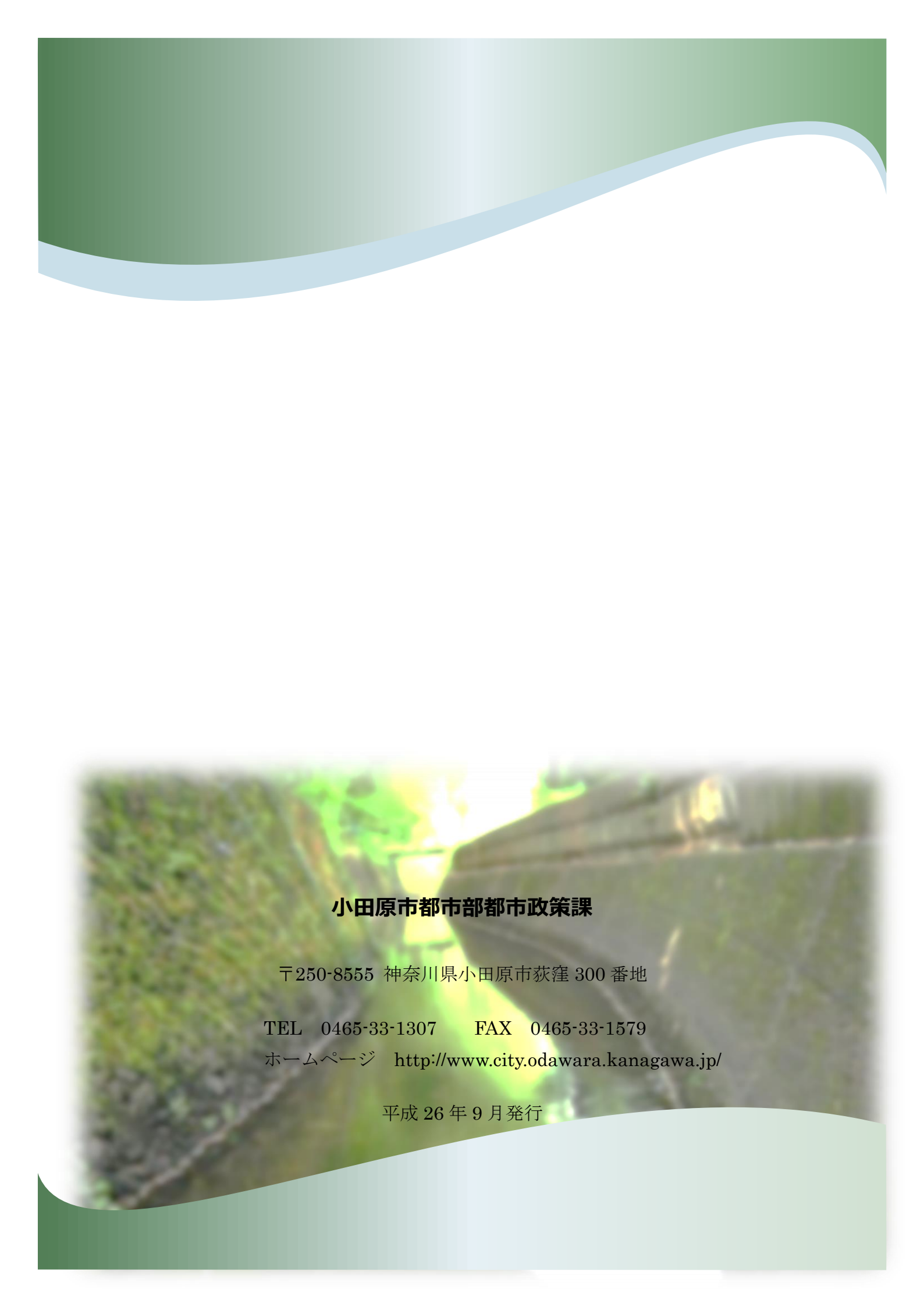
バイオマス	生物資源 (bio) の量 (mass) を表す概念で、「再生可能な生物由来の有機性資源で化石資源を除いたもの」である。バイオマスの種類には、①廃棄物系バイオマス (食品廃棄物・廃材等)、②未利用バイオマス (稲わら・麦わら等)、③資源作物 (サトウキビ等) がある。
バックキャスト	将来を予測する際に、将来像を想定し、その姿から現在を振り返って今何をすればいいかを考える手法。
ヒートポンプ	少ない投入エネルギーで、空気中などから熱をかき集めて、大きな熱エネルギーとして利用する技術のこと。身の回りにあるエアコンや冷蔵庫などに利用されている省エネ技術。
比湧出量	揚水量を井戸の水位で除した値で、揚水した量に応じて、どの程度、水位が降下するかを目安に用いられる。
フィーダーバス	鉄道駅から自宅を結ぶバス等、幹線的な公共交通から自宅等を結ぶ支線的なバス路線。
フォアキャスト	過去のデータや実績に基づいて、その上に少しずつ物事を積み上げていく手法。

<ま行>

面的エネルギーの導入	個々の建物ではなく、面的な複数の建物で効率的なエネルギーの供給を図るシステム。利用する施設・建物、地域の特性により異なるが、①広域に供給する熱供給事業型、②特定地域へ供給する集中プラント型、③近接建物へ供給する建物間融通型の3パターンがある。
モビリティ・マネジメント	地域や都市を、「過度に自動車に頼る状況」から、「公共交通や徒歩などを含めた多様な交通手段を適度に (=かしこく) 利用する状態」へと少しずつ変えていく一連の取り組み。

<ら行>

LEED	LEED (Leadership in Energy & Environmental Design) とは、非営利団体の米国グリーンビルディング協会 (USGBC) が開発・運用している、環境に配慮した建物に与えられる認証システム。アメリカをはじめ世界数十か国が取り入れ、世界的な基準になりつつある。
------	--



小田原市都市部都市政策課

〒250-8555 神奈川県小田原市荻窪 300 番地

TEL 0465-33-1307 FAX 0465-33-1579

ホームページ <http://www.city.odawara.kanagawa.jp/>

平成 26 年 9 月 発行